

<調査結果報告>

三重県内企業の業況と仕入れ状況に関する調査

三重県内の事業所を対象に、業況と、部材・商品の供給不足の状況、原材料価格高騰の状況等について調査しましたので結果を報告します。ご回答いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

【担当】株式会社百五総合研究所 コンサルティング事業部 調査グループ 谷ノ上（たにのうえ）

三重県津市岩田21番27号 TEL059-228-9105、080-6961-5358

【調査概要】

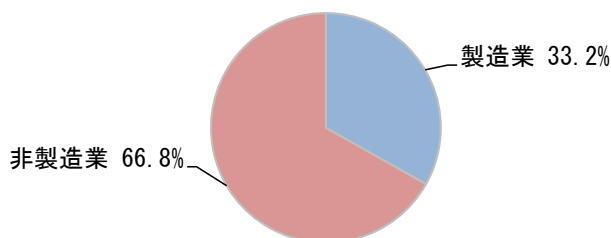
- 調査期間：2022年5月26日～6月3日
- 調査対象・回答数：三重県内の事業所（以下、企業）、202件

【結果概要】

- 2022年4-6月期の業況はマイナス。7-9月期は上向く見通し。
- 4割強の企業で“仕入れ難”。9割弱の企業で“仕入価格上昇”。
- 仕入れ難への対応、「代替品に切り替え」が最も高い。
- 販売価格に“概ね・ある程度転嫁”できている企業は約5割に上昇。
- 26.0%の企業では、仕入価格上昇による業績への影響大。今後の動向に注視。

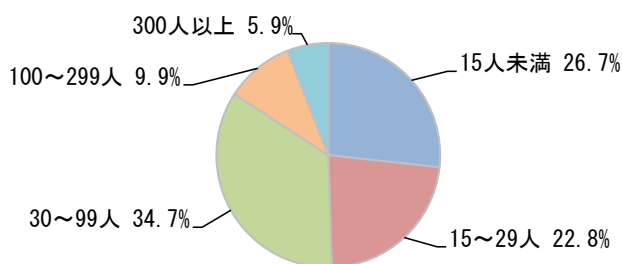
<基本属性>

業種2区分
(n=202)

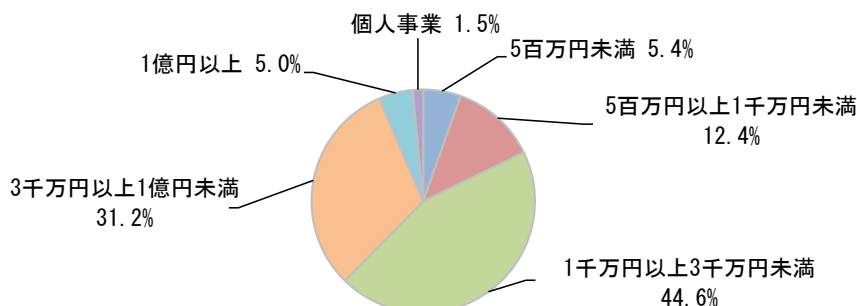


従業員数

(※) 正社員および非正社員（契約社員・嘱託・パート・アルバイト）の合計数
(n=202)



資本金
(n=202)



【調査結果】

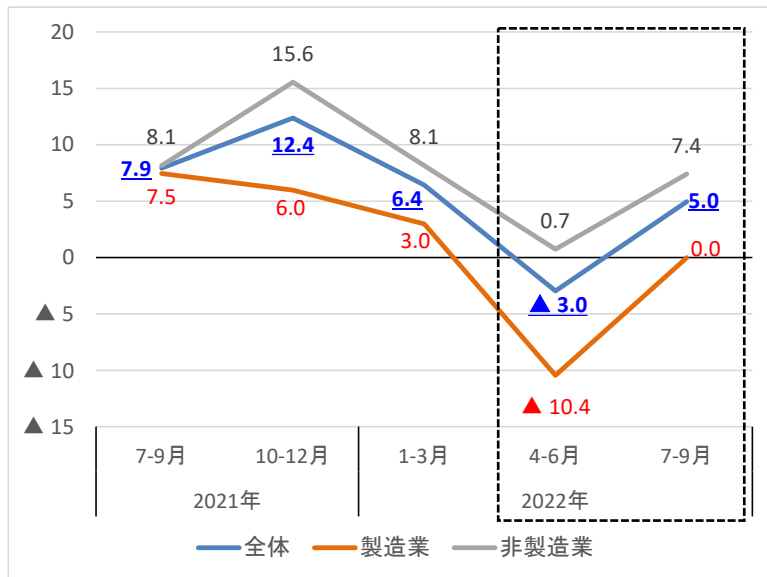
◆2022年7-9月期の業況は上向き見通し

自社の収益を中心とした、業況についての全般的な判断について、「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる割合を引いた「業況判断D I」は、2021年10-12月の12.4から、22年1-3月は6.4に低下、4-6月（実績見込み）は△3.0とマイナスに転じたものの、7-9月（見通し）は5.0に上昇した。

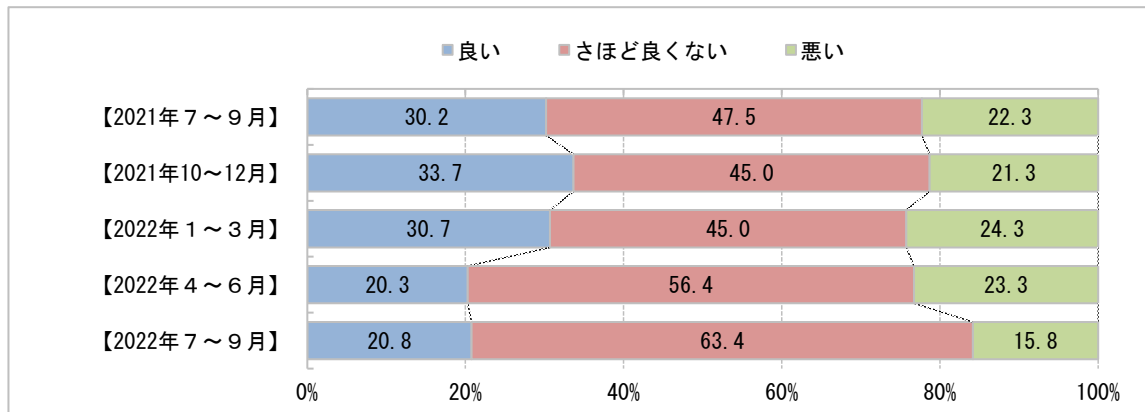
4-6月の実績見込みは、ウクライナ情勢の長期化に加え、中国での新型コロナウイルス感染再拡大によるロックダウンにより、部材・商品等の供給不足や物流制約、原材料価格等の高騰が一層進み、製造業・非製造業ともにその影響を受ける企業が多く見られた。4-6月が「良い」とみる企業の割合は20.3%となり、前期より10.4ポイント減少した。

7-9月の見通しについては、中国のロックダウンが6月に実質解除となったためその影響からの回復や、国内のコロナ感染状況が落ち着きつつあることから、イベント再開や外出需要などの回復を期待する企業が見られた。7-9月が「良い」とみる企業は20.8%で前期とほぼ横ばいであったが、「悪い」は15.8%で7.5ポイント減少した。

■業況判断D I



<業況判断（回答割合）>



※D I = 「良い」 - 「悪い」（自社の収益を中心とした、業況についての全般的な判断）

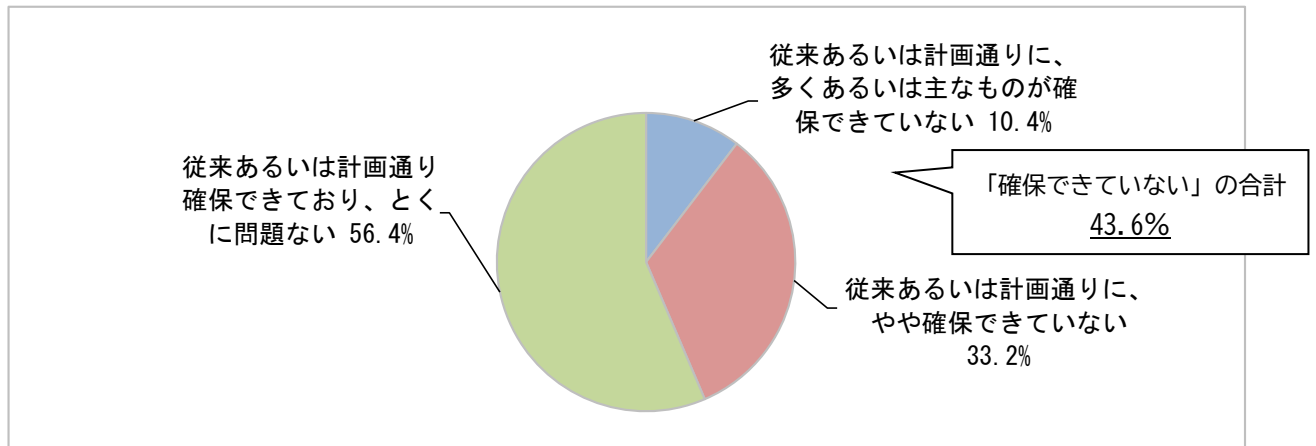
※「2022年4-6月」は実績見込み、「2022年7-9月」は見通し。

◆ 4割強の企業で“仕入れ難”

原材料・商品などの仕入れ（数量・納期など）の状況について、従来あるいは計画通りに、「多くあるいは主なものが確保できていない」は10.4%、「やや確保できていない」は33.2%となり、合わせて4割強（43.6%）の企業で「仕入れ難」となっている。

業種別にみると、製造業が44.8%、非製造業が43.0%で大差はない。

■ 仕入れ難の状況（数量・納期）

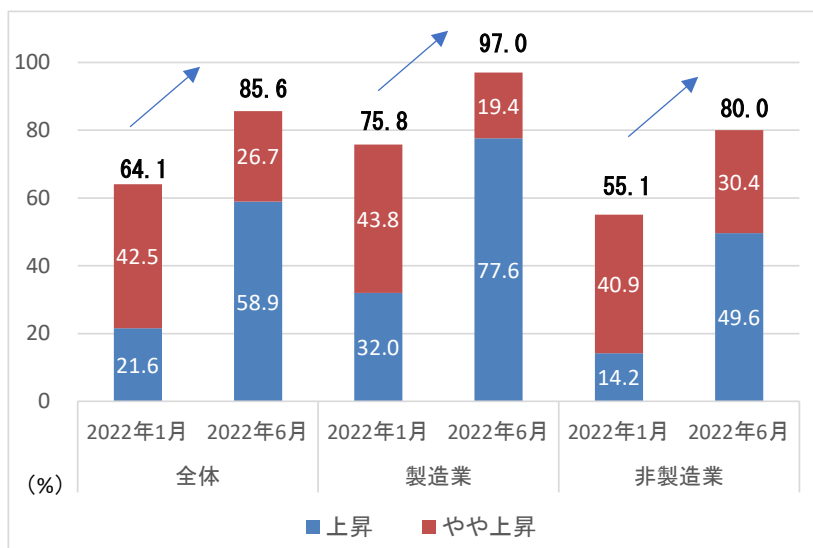


◆ 9割弱の企業で“仕入価格上昇”

仕入価格がおおよそ1年前と比べて「上昇」している企業は58.9%、「やや上昇」している企業は26.7%で、合わせて85.6%の企業が上昇傾向にある。22年1月時点の64.1%より大幅に上昇、とくに「上昇」の割合が高まり、上昇傾向がより鮮明になっていることがうかがえる。

業種別にみると、製造業は97.0%、非製造業は80.0%の企業で上昇傾向にあり、製造業でよりその傾向が強い。

■ 仕入価格が「上昇」「やや上昇」の企業割合（おおよそ1年前と比べて）



◆仕入れ難への対応、「代替品に切り替え」が最も高い。

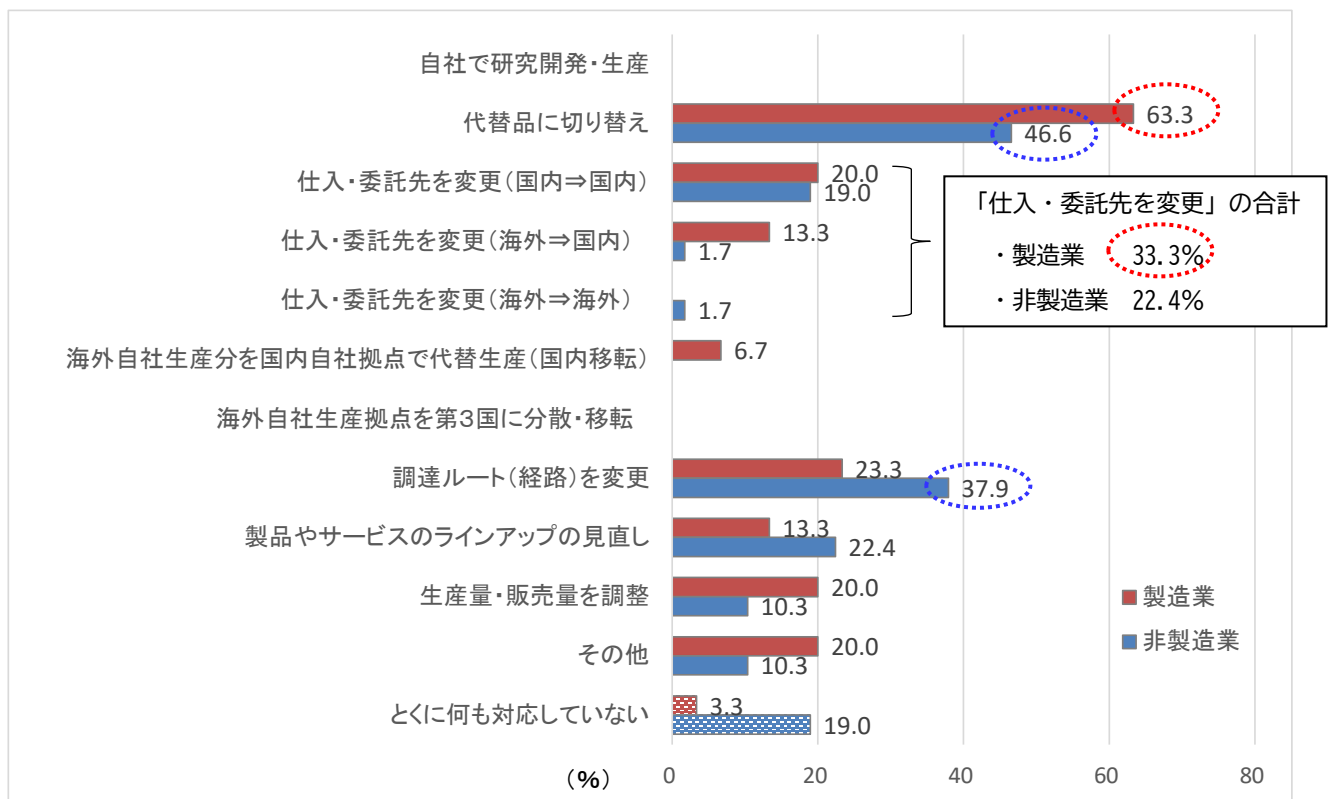
原材料・商品などの仕入れ（数量・納期など）が、従来あるいは計画通りに確保できていない企業が、「仕入れ難」に対しどのような対応を行っている（予定している）かについて。

製造業では、「代替品に切り替え」が63.3%に上り、次いで「仕入・委託先を変更*」が33.3%で高い。（*国内⇒国内、海外⇒国内、海外⇒海外の合計）

非製造業では、「代替品に切り替え」が46.6%で最も高いが、次いで「調達ルート（経路）の変更」が37.9%と高い。一方、「とくに何も対応していない」が19.0%に上った。

なお、海外から国内に「仕入・委託先を変更」した企業では、中国でのロックダウンが影響したケースが多く見られた。

■仕入れ難への対応策（複数回答）

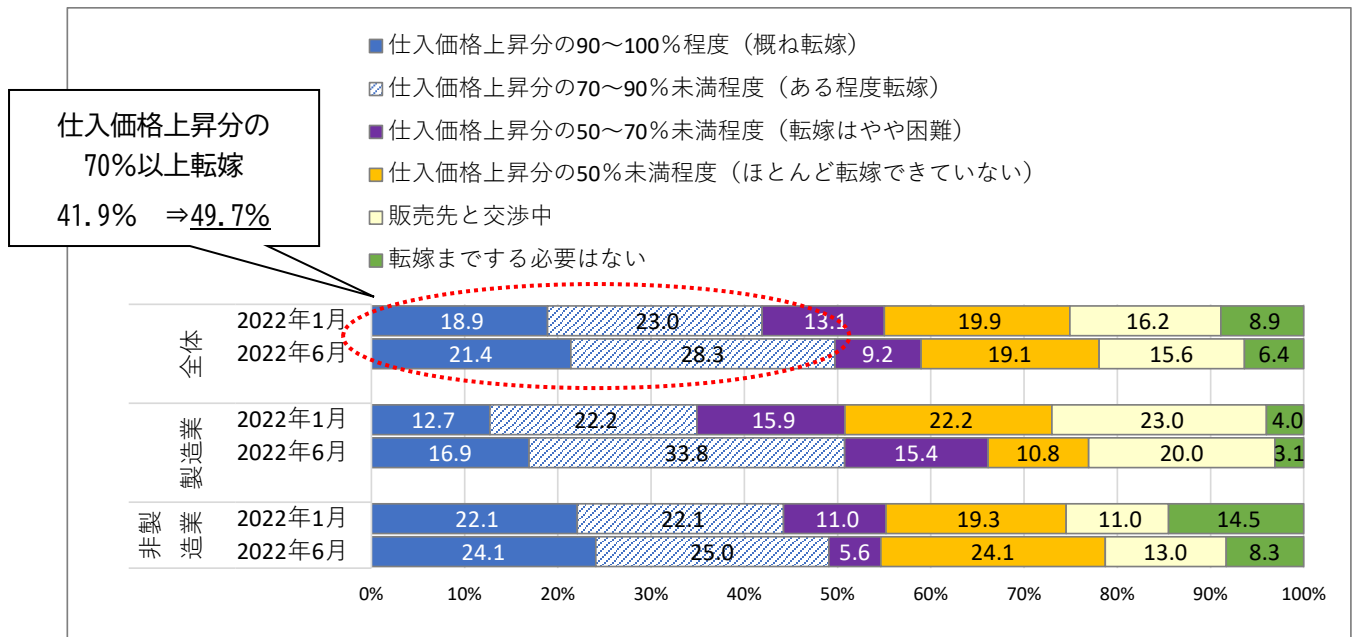


◆ “概ね・ある程度価格転嫁” している企業は約5割に

仕入価格が上昇傾向にある企業において、販売価格にどの程度転嫁しているか（現状および確定している予定含む）についてみると、仕入価格上昇分の「90～100%程度（概ね）転嫁」（21.4%）あるいは「70～90%未満程度（ある程度）転嫁」（28.3%）できている企業は合わせて、22年1月時点の41.9%から49.7%に上昇した。製造業、非製造業ともに上昇傾向にある。

非製造業では、22年1月より、「転嫁までする必要はない」割合が低下し、「50%未満程度（ほとんど転嫁できていない）」が上昇、製造業ほどには転嫁が進んでおらず、転嫁の必要性が高まっていることがうかがえる。

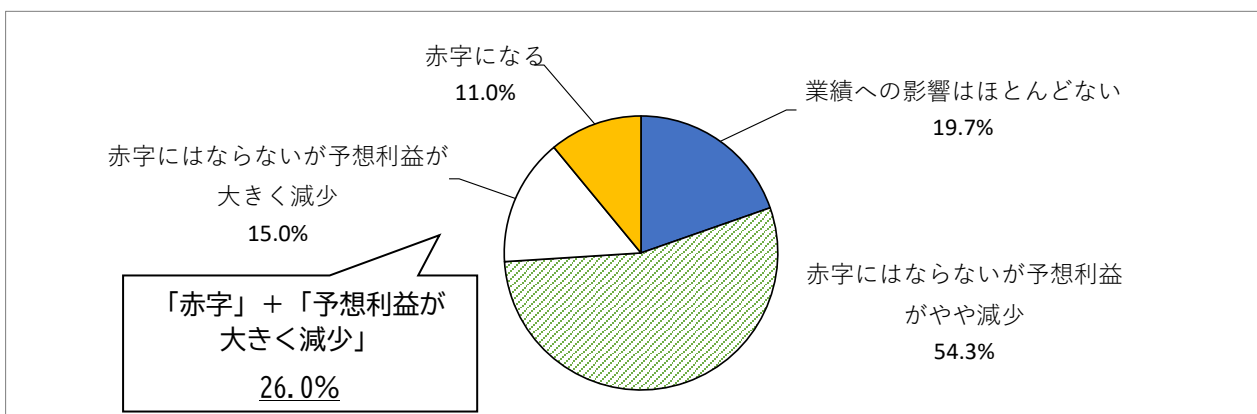
■ 販売価格への転嫁状況



◆ 26.0%の企業で、仕入価格の上昇による業績への影響大

仕入価格の上昇を受けて、2022年度上期の業績が「赤字になる」とみる企業は11.0%、「赤字にはならないが予想利益が大きく減少」は15.0%となり、合わせて26.0%の企業が業績に大きな影響を受けている。

■ 仕入価格上昇による業績への影響



◆企業の声

■2022年4-6月の業況「悪い」

- ・ 中国のロックダウンの影響で自動車メーカーの稼働が停止し、5月の売上が計画比30%減少。(自動車用ゴム製品製造)
- ・ 自動車生産が、半導体不足が解消しない中、中国のロックダウンの影響によりさらに減少。供給不足で新車販売が低迷。大半の車種の納期が6か月以上。(自動車販売)
- ・ 半導体不足、物流の停滞、中国のロックダウンによるメーカーの稼働停止により、電気部品(インバーター、スイッチ、ケーブルコネクタ、センサー類など)や機械部品(ボールねじ等直動部品、減速機など)などの仕入れ納期に1年以上かかるものもあり、受注から売上までの期間が従来の6か月程度から1年以上に。[⇒対応策：設計変更、部品の先行手配、納期短縮依頼](専用工作機械、金型製造)

■2022年7-9月の業況「良い」

- ・ 中国のロックダウンの解除でメーカーの生産回復を期待。(モーター等電気機器製造)
- ・ ホテルの改装工事(受注)が増えてきた。(内装・家具等製造)
- ・ 鈴鹿サーキットでのレースイベント再開で昨年より売上増見込み。6月半ばから着工現場が数件ある。(空調設備工事)
- ・ コロナの感染状況の落ち着きから、外出機運が高まり、外出需要が動き始めた。(小売：食品、衣料品、雑貨)
- ・ まん延防止重点措置解除後、自主的な出張制限を緩和し、4-6月の売上が増加。7-9月も同様の流れが続くと予想している。(卸売：メーカー向け洗浄機)
- ・ コロナの感染状況が落ち着き、Go Toなどの再開が予想される。(ホテル)

■ロシア・ウクライナ情勢の仕入れへの影響

- ・ ジルコンサンド、レアメタル、酸化クロムなどの鉱物資源の入手が困難に。(脱炭素化などを背景とした)世界的なインフレに加え、ウクライナ情勢で。ジルコンサンド、酸化コバルトの価格は前年比2~3倍。酸化クロムは入手不可に。(化学、顔料)
- ・ ウクライナ情勢が加わり、液化石油ガス(LPガス)の価格が前年比2倍以上に。ガス製品が全般的に入荷困難に。(石油小売)
- ・ ウクライナ情勢に起因する半導体製造の原料不足で、モーターなどの電動機や電子制御部品などの納期回答が6か月以上。(産業用機器製造)
- ・ ロシアからのヘリウムガスの入手が困難に。企業努力でなんとか今後1年分は確保したが、その先は不透明。(架線金物製造、メッキ加工)
- ・ 鮭の仕入れが数量的にやや困難に。仕入価格は前年比2割上昇。(ロシア上空を通る主要空輸ルートが困難な状況)(水産加工)

以上